

高知カツオ県民会議 第四回カツオ消費・漁業分科会 議事録

日 時 平成29年9月22日(金)16~18時過ぎ	場 所 サニーマート流通センター会議室															
出席者																
出席者 (敬称略)	20名															
	座席配置															
スクリーン	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">味の素</td> <td style="width: 10%;">かつお</td> <td style="width: 10%;">県漁協</td> <td style="width: 10%;">県漁協</td> <td style="width: 10%;">エ-スワン</td> <td style="width: 10%;">エ-スワン</td> <td style="width: 10%;">サンシャイン</td> </tr> <tr> <td>長谷川</td> <td>明神</td> <td>澳本</td> <td>米沢</td> <td>西川</td> <td>石川</td> <td>濱田</td> </tr> </table>	味の素	かつお	県漁協	県漁協	エ-スワン	エ-スワン	サンシャイン	長谷川	明神	澳本	米沢	西川	石川	濱田	味の素 渡邊 加治 木村
味の素	かつお	県漁協	県漁協	エ-スワン	エ-スワン	サンシャイン										
長谷川	明神	澳本	米沢	西川	石川	濱田										
	プロジェクト															
	サニー	サニー 眞鍋 講演のみ 出水 松田														
	かつお															
	旭食品															
	旭食品															
	新生丸															
	明神丸															
	青年会															
	高知新聞															
	中村															
	中田															
	福島															
	坂口															
	松下															
	明神															
	高橋															
	福田															
本日の議事		配布資料														
1. 味の素 長谷川様より講演 2. 佐賀戻りカツオ祭り 3. シンポジウムの案内 4. 次回について		1. 議題 2. 講演資料														
議 事 内 容 (敬称略)																
1. 味の素 長谷川様より講演		(110分)														
・カツオ生態調査のプロジェクトリーダーの長谷川様より、講演 導入：なぜ味の素がカツオ調査？ ほんだしにはカツオ節を粉砕した節粉が入っており、非常に重要な商品。 日本のだしを簡単に作れる、その文化を守っていることを考えている。 ヤマキ等の関係会社を含むと、相当な量のカツオ節を使っている。 カツオ資源を調査し保護していくことは義務だと考え、2009年より調査を行っている。																
発表資料よりの抜粋																
味の素の歩み	世の役に立ちたいと志															
だしの歴史と種類、地域性	食の中心にあり、種類は豊富である															
ほんだしとカツオの関係性	カツオ節は国内で買付している。カツオ自体を獲っているわけではない。															
カツオ資源、漁獲量	カツオは1年で50cmに成長、世界的には非常に優秀なタンパク質															
カツオの分布とルート	黒潮によっておりるのはレアケースか？意外と動かないサンプル多い。															
調査方法紹介	種類によって値段も性能も違うが、各役割がある															
調査機回収の依頼	発信機を見かけた場合は連絡をいただきたい															
食育やエコなど啓発活動紹介	若い世代への啓発が重要と考えている															
質疑応答																
Q/	漁獲高について今後どうなっていくといった考えがあればお聞かせいただきたい															
A/	マグロやウナギは危機的と言われているがそうなるからの調査では既に手遅れとなるため、カツオは資源量は豊富だと言われているうちにきちっと情報を集めていくことが将来に向けても必要。南の島では豊富なカツオがあり、日本はそこから流れてきた辺境の地、豊富なところの少しの変化でも日本にとっては大きな変化になるかもしれない。その変化を知るためにも調査をしているが、まだ調査も若く、今分り始めていることが多く、これからだと感じている。															
Q/	全体の漁獲高が増えれば、カツオ自体は減って、エサが豊富になり、ますます北上しなくなるのでは？															
A/	海水温の好みがありエサだけの問題でもない。単純に黒潮や海の温度が変わったという可能性も否定できない。漁場が大きく変わった可能性もある。															
Q/	台湾はツナ缶のために漁業をやっているのか？															
A/	両方。巻き網で大量捕獲もあるが、小さい船の漁民での昔ながらの漁も存在している。台湾は中国とは立ち位置を違えており、台湾は比較的日本寄りである。															
Q/	ツナ缶としての世界的なカツオ需要、漁獲が増えていくなかで、メーカーとして原料調達はどう考えているか？															
A/	技術的にはカツオ資源をあまり使わずにダシ文化を維持していくための置き換えという技術や研究は進めている															
Q/	NSC、MELという認証で生で訴求することは難しく、ツナ缶や加工品ならば、啓蒙は啓発はしやすいのでは？															
A/	という意見が当会でも出ていたが、カツオ節での普及や定着の可能性をどう考えるか？ハンオイルやコヒでは認証もあり、エビ養殖でも膨大な量を使っており認証を考えている。カツオを考えると、NSCでの認証を受けるための増分のコストを誰が負担するかの問題になる。ヨーロッパのような思考にならず、鮮度や値段になってしまう。イオンがすごく頑張っているが、それでも売れる訳ではなく、難しい問題だが、誰がリードするかとなれば、政府が行うべき。オリパラも迫ってくるなかでNSCに制限という方針に対し、真剣に解決するためにどうするのかを聞きたい。															
Q/	食資源で見れば、水産物だけがほぼ生産ではなくほぼ獲るといって、この先で人口が増えれば資源も															

議事内容(敬称略)

底をつかもしれない中でも、世界的な資源としては現在も豊富だという捉えの中で、高知としては自分達が困っており、なんとかしたいという考えで県民会議を発足しているのだが、それについてどう考えらえるか？
A/ 資源には臨界点があり、それを超えると突然いなくなってしまう。ここまでならば大丈夫で再生されていくというところかどのあたりかということを見極めていきたい。
資源量を確保していくこと、獲ったからにはムダにせず使い切る、再生産していくための量をどう考えるかを国際的に話合っていかなければならないだろう。

Q/ 戻りカツオは秋口の戻りカツオでこれまで売ってきたのだが、年中脂ののったカツオが市場に入ってくることもある脂がのるというのはどういった条件なのだろうか？

A/ 大量にプランクトンが発生したところに小さい魚が集まり、それを狙ってカツオやマグロは集まる。プランクトンを大量に食べれば脂がのる。産卵しない状態で集中して食べるという条件が整うということになる。調査している対象は、一旦釣って腹に調査機を入れて、また海に戻して、また釣ったものの調査結果であり、そのカツオが他のカツオを代表しているかどうか、あるいは特殊なものなのかという不安や心配もある。今やれる手段がこれしかないのだが、全く違う結論があるのかもしれない。

Q/ 30cm以下のカツオや小さい魚を大量に獲っていることが資源に影響を与えている、あるいはFADによる漁が資源に影響を与えており、資源を守るという点で批判的な見方もあるなかで企業としての環境貢献や社会貢献をどう考えているか？

A/ FADのカツオは使っておらず、焼津・枕崎で冷凍で水揚げされたカツオを基本的には使っているので、日本の漁業者のものを使っている。ただし小さい魚体を使っているのは事実ではあるが、日本の近海一本釣りで、今の値段でほんだしを作ることはできない。そうなれば誰も変えないような高価になり日本中の食卓が貧しいものになると考えている。どこまでが正しいのだろうかということを見極め、回答を見つけていくため、カツオ節、日本のダン文化を守るためにやっていることでもある。資源保護、愛護といった価値観で資源を守るとなると、国民の総意としてカツオを買わないということになるならば、ほんだしを買わなくなってくるということになり、そうならないための調査だと理解している。

2. 佐賀戻りカツオ祭り

(10分)

10月14日に開催されるが、県民会議用にブースを構えてくれるという話もあるため、何かできるかどうか。

この祭りそのものを十分に理解していないことと、県民会議としての成果物もまだない状態であるため、具体的にできることが見えてこないことを考慮し、本年度は参加は見送ることとする。今年の様子を見て、必要なことが何か、どういったことができるかを検討し、次年度に繋げたい。

3. シンポジウムの案内

(5分)

11月9日、16:30~19:00、カルポートでのシンポジウムがあり、その後19:30~日航旭ロイヤルで懇親会の予定もあるが、全体の事務局より改めて発信あれば、連絡を行うので参加検討頂きたい。

4. 次回について

消費・漁業分科会ということで、一度、カツオ漁を体験してみるということをやってみたい。釣果を期待というよりも体験することで新たに感じるものがあるかと期待している。候補日は10月26日(木)夜中から出船を検討し船の手配等を行い連絡を行うので、予定が合えば参加検討頂きたい。これが難しい場合は、これまでのまとめを一度やるということを考えてい。

以上